

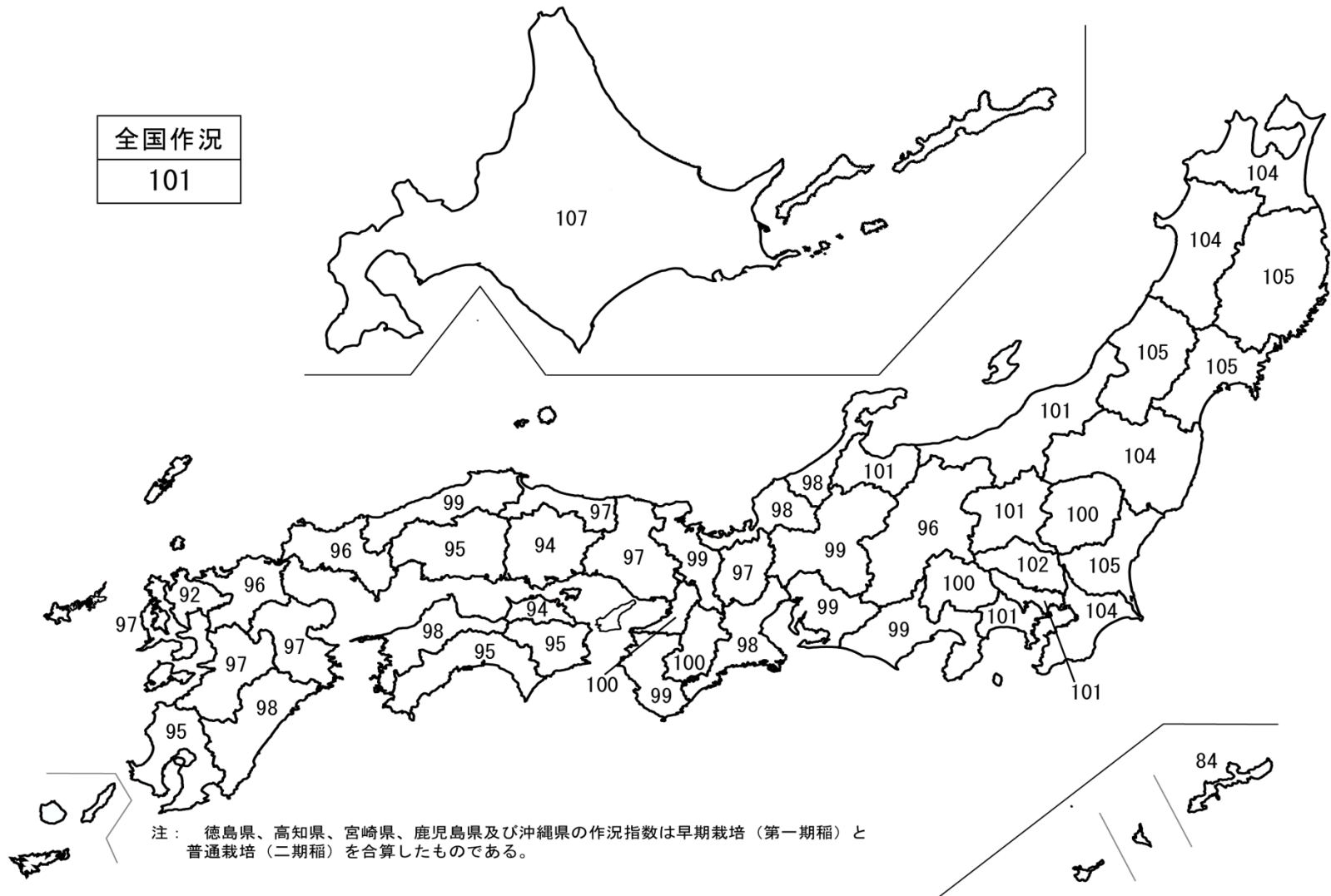
平成26（2014）年産水稻の作柄について

<目次>

平成26年産水稻の作況指数	1
平成26年産農業地域別作柄の特徴	2
水稻の作柄に関する委員会の意見に対する作柄の概要	3

平成26年産水稻の作況指数

全国・都道府県別作況指数



平成26年産農業地域別作柄の特徴

【北海道：作況指数107】

- 田植期以降の好天で穂数は多く、1穂当たりもみ数は穂数が多かったことによりやや少なかったものの、全もみ数がやや多いとなった。
- 登熟は、出穂期以降おおむね天候に恵まれたものの、全もみ数が多かった影響で平年並みとなった。

【東北：105、関東・東山：102】

- 田植期以降7月にかけて天候に恵まれ穂数が総じて多く、1穂当たりもみ数が平年並みとなったことから、全もみ数が総じて多いないしやや多いとなった。
- 登熟は、全もみ数が多かったこと、8月の日照不足の影響等により総じて平年を下回った。

【北陸：100、東海：99、近畿：98】

- 田植期以降総じておおむね天候に恵まれたことから、穂数は総じて平年を上回り、1穂当たりもみ数が少なかったものの、全もみ数はやや多いないし平年並みとなった。
- 登熟は、全もみ数が多かったこと、8月の日照不足の影響等により総じて平年を下回った。

【中国：96、四国：96、九州：96】

- 6月以降断続的に低温・日照不足傾向であったこと等により、全もみ数は総じて平年並みないしやや少ないとなった。
- 登熟は、8月以降も低温・日照不足傾向で推移したことに加えて、地域によってはいもち病、トビイロウンカの被害等の拡大がみられたことにより平年並みないし平年を下回った。

水稻の作柄に関する委員会の意見に対する作柄の概要

「水稻の作柄に関する委員会（平成26年度第2回）の意見」（平成26年9月4日）の抜粋

2 次回の調査に当たって留意すべき事項

- (1) 早場地帯の地域においては、もみ数が多い条件下で8月以降の日照不足等が登熟や品質に及ぼす影響に留意する必要がある。
- (2) 6月以降断続的に寡照・長雨となっている近畿以西の西日本においては、もみ数への影響を見極める必要がある。
- (3) 8月の局地的な集中豪雨による冠水や倒伏が発生した地域では、その影響を見極める必要があるとともに、今後の台風及び集中豪雨による作柄への影響に留意する必要がある。また、北陸等一部地域においては、フェーン現象等による白穂の発生もみられることから、これらに留意する必要がある。
- (4) いもち病、斑点米カメムシ類等の病虫害の発生が多いと予想される地域においては、その発生状況に留意する必要がある。

1 早場地帯での8月以降の日照不足等による登熟や品質への影響

	1㎡当たり 全もみ数 (百粒)	千もみ 当たり 収 量 (g)	作 況 指数	1 等米比率(%)		日照時間（平年対比：％）及び 平均気温（平年差：℃）									
				26年産 12月現在	25年産 確定	5 月	6 月	7 月	8 月			9 月			
						月間	月間	月間	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
北海道 (旭川)	362 (105)	16.4 (101)	107	83.3	89.2	日照時間	96	102	134	99	93	160	105	85	141
						平均気温	1.3	2.7	1.7	1.4	△ 0.1	△ 0.8	0.8	△ 2.1	△ 0.1
山形 (山形)	340 (108)	18.7 (97)	105	92.7	95.6	日照時間	109	107	115	85	65	73	110	148	185
						平均気温	1.1	1.6	0.8	1.5	0.0	△ 1.0	△ 0.5	△ 2.0	0.5

	1㎡当たり 全もみ数 (百粒)	千もみ 当たり 収 量 (g)	作 況 指数	1 等米比率 (%)			日照時間（平年対比：％）及び 平均気温（平年差：℃）								
				26年産 12月現在	25年産 確定		5 月	6 月	7 月	8 月			9 月		
							月間	月間	月間	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
福島 (福島)	316 (106)	18.1 (98)	104	92.1	91.8	日照時間 平均気温	118 2.2	99 1.6	121 1.3	101 1.1	66 0.0	75 △ 1.0	93 △ 0.9	166 △ 1.4	186 0.9
茨城 (水戸)	316 (106)	17.7 (99)	105	92.9	89.6	日照時間 平均気温	139 1.6	114 1.5	139 1.0	131 2.0	92 0.6	72 △ 1.3	81 △ 1.4	116 △ 2.0	197 0.2
新潟 (新潟)	307 (105)	18.2 (96)	101	74.9	77.3	日照時間 平均気温	112 0.6	117 1.3	115 0.4	77 1.0	52 △ 1.0	73 △ 1.4	127 △ 0.4	137 △ 2.2	162 0.1
長野 (長野)	335 (101)	18.2 (95)	96	95.3	96.5	日照時間 平均気温	115 0.5	100 1.2	114 0.8	70 0.1	59 0.7	54 △ 1.4	97 △ 0.9	152 △ 2.7	178 0.2
滋賀 (彦根)	308 (103)	16.6 (94)	97	52.9	55.9	日照時間 平均気温	87 2.9	106 1.7	120 0.8	32 △ 0.1	75 △ 0.3	50 △ 1.2	73 △ 1.2	133 △ 1.5	174 0.6
島根 (松江)	286 (106)	18.0 (94)	99	73.3	56.4	日照時間 平均気温	135 1.0	85 0.8	113 0.6	13 △ 1.0	42 △ 2.0	58 △ 1.5	102 △ 0.8	121 △ 1.4	147 0.7

注：1 県名の下段の()書きはアメダス地点名である。

2 1㎡当たり全もみ数及び千もみ当たり収量欄の下段の()書きは平年対比である。

3 1等米比率は、生産局農産部穀物課「米の農産物検査結果」における水稻うるち米の結果である。

- ① 早場地帯の地域においては、田植え期以降出穂期にかけておおむね天候に恵まれたことから、全もみ数が平年に比べて多いないしやや多くなった地域が多かった(15/19道県)。
- ② 一方、出穂期以降は、日照時間が8月中旬から9月上旬に平年を下回り、気温は8月下旬から9月中旬に平年を下回り推移した。
- ③ このような気象及びもみ数の状況において、千もみ当たり収量をみると、多くの地域で平年を下回る状況で、その度合いは西の地域ほど影響が大きかった。
- ④ なお、北海道については、9月上旬までの好天により、収量的には作況指数107となったものの、その後の低温や全もみ数が多かったこと等でふるい目の上位段にも青死米の発生が多い状況が発生した(緊急調査を実施。)

2 6月以降断続的に寡照であった近畿以西の地域におけるもみ数への影響

	日照時間（平年比：％）								田植最盛期 （平年遅速）	出穂最盛期 （平年遅速）	1㎡当たり 有効穂数 （本）		1穂当たり もみ数 （粒）		1㎡当たり 全もみ数 （百粒）	
	6月			7月			8月				平年比	平年比	平年比	平年比		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬								
兵 庫 （神戸）	85	114	134	58	138	140	28	73	6月4日 （並み）	8月13日 （並み）	339	100	78.2	98	265	97
岡 山 （岡山）	56	104	98	59	106	129	16	40	6月7日 （1日早）	8月20日 （1日遅）	350	101	80.0	99	280	100
愛 媛 （松山）	49	80	96	38	90	115	15	55	6月2日 （並み）	8月15日 （1日遅）	361	102	76.7	99	277	101
福 岡 （福岡）	38	82	120	46	78	113	20	40	6月17日 （並み）	8月24日 （1日遅）	361	96	77.0	99	278	95
佐 賀 （佐賀）	47	89	95	46	60	100	21	46	6月20日 （並み）	9月1日 （5日遅）	383	94	73.9	100	283	94
長 崎 （長崎）	60	75	103	45	62	107	32	59	6月15日 （並み）	8月30日 （4日遅）	359	94	74.4	100	267	95
熊 本 （熊本）	65	71	98	46	68	109	27	56	6月14日 （1日早）	8月24日 （3日遅）	382	98	75.1	98	287	97
大 分 （大分）	49	77	89	52	94	121	20	57	6月13日 （1日早）	8月29日 （3日遅）	357	98	81.2	101	290	99

注：県名の下段の（ ）書きはアメダス地点名である。

- ① 近畿以西においては、6月以降断続的に日照が少ない傾向で推移し、8月はいずれの地域もかなり少ない状況であった。特に、九州地域では田植え期以降8月の出穂期まで日照時間が少ない状況が継続した。
- ② このような状況により、田植最盛期が6月中旬である九州地域では初期生育が抑制され、穂数が平年に比べて少なくなり、1穂当たりもみ数も十分な補償作用がみられなかったことから、全もみ数が平年に比べて少ないとなった地域がみられた。

3 台風等による作柄への影響

災害名	主 な 都道府県	被害面積	被害量
台風第8号及び梅雨前線に伴う大雨等 (7月上旬)	山形	ha 1,150	t 220
台風第12号、第11号及び前線に伴う大雨 等(8月上旬)	北海道	541	196
	新潟	7,500	1,700
	徳島	1,230	446
	高知	1,000	400
	宮崎	551	101
台風第18号(10月上旬)	宮崎	918	247
台風第19号(10月中旬)	宮崎	1,250	356

データ:「農作物災害種類別被害統計」

注:主な都道府県は被害量が100t以上を記載した。

- ① 8月の局地的な集中豪雨、台風等による被害については、上表のとおり発生したものの、県全体の作柄への影響としてみた場合は、局地的・短期間の冠水や倒伏が主で、比較的軽微な被害であったとみている。
- ② 8月上旬の台風・大雨による新潟県の被害では、下越北地帯（新発田市周辺の4市町）を中心にフェーン風による白穂や変色もみの発生の被害がみられた。

4 病虫害の発生による作柄への影響

○病虫害発生予報第7号（平成26年9月18日発表）抜粋

- ・ トビイロウンカの発生は、9月前半に兵庫県で極めて多い発生が確認され、一部で坪枯れの発生したほ場が確認されたとして警報が発表されています。また、中国の一部地域で「多い」、四国及び九州の一部地域において「やや多い」と予想されます。
- ・ イネいもち病は、今後登熟期を迎える中国及び九州地域では、穂いもちの発生が「多い」または「やや多い」と予想されます。
- ・ トビイロウンカでは、兵庫県で警報、中国、四国及び九州の5県で注意報が発表されました。穂いもち病では、中国及び九州を中心に、5県で警報、5県で注意報が発表されました。

いもち病及びウンカの被害量

	26年産 作況指数	いもち病（t）			ウンカ（t）		
		26年産	（参考）		26年産	（参考）	
			25年産	24年産		25年産	24年産
兵 庫	97	1,360	2,080	443	1,240	1,940	177
鳥 取	97	1,820	249	341	20	67	62
島 根	99	1,370	564	294	60	159	23
岡 山	94	3,860	4,920	1,860	921	5,700	841
広 島	95	4,090	1,410	794	317	1,090	222
山 口	96	1,500	840	1,120	693	2,140	590
徳 島	95	1,850	1,350	1,750	32	183	7
香 川	94	1,400	767	850	225	395	132
愛 媛	98	935	762	602	524	1,420	201

	26年産 作況指数	いもち病（t）			ウンカ（t）		
		26年産	（参考）		26年産	（参考）	
			25年産	24年産		25年産	24年産
高 知	95	917	196	462	168	479	87
福 岡	96	4,600	2,390	2,520	1,380	6,560	345
佐 賀	92	8,410	1,180	1,150	1,650	8,150	958
長 崎	97	783	559	533	1,480	1,810	417
熊 本	97	2,730	2,420	5,030	3,870	5,210	2,040
大 分	97	3,200	3,800	2,970	1,210	6,490	118
宮 崎	98	2,820	3,310	2,920	1,260	2,980	845
鹿児島	95	4,180	2,590	2,460	5,040	4,650	3,960

データ：「作物統計」

- ① 26年産においては、近畿・中国・四国地域の一部及び九州地域でいもち病又はトビイロウンカによる被害が大きく、県によってはもみ数の減少に加え作柄を低下させる要因となった。
- ② このうち、ウンカの被害については、一部を除き昨年ほどの大発生はなかったものの、いもち病の被害は昨年を上回る地域があった。
- ③ 斑点米カメムシ類等その他の病虫害による被害は、全般的には大きな被害の発生には至らなかったとみている（平成26年産の全国の被害量は10,400 tで、過去5年平均は10,500 t）。